

第2学年「国語」学習指導案

授業者 下脇 陽子

2月21日(土) 2階D室 10:00～10:40 (話し合い11:00～11:45)

1 単元名 ひょうげんを たのしもう ～ふたりは〇〇～ 教材名「お手紙」他

2 単元について

単元目標	・場面の様子や登場人物の具体的な行動について想像したことを生かし、音読であらわそうとする。 ・がまくんとかえるくんの人物像や関係性について叙述をもとに読み取り、自分で選んだことばであらわす。
------	---

本校の低学年教育の柱の一つに「サークル対話」がある。教室の真ん中に並べたベンチに座り、互いの顔を見ながら身体的に近い距離で互いの声を聞き合う場合は、「うまく言えなくても大丈夫」という安心感の中、話し手も聞き手も育つと考えている。聞き合う関係性を大切にしながら、子どもの興味関心をもとに生活から立ち上がる学びを目指している。

物語の学習では、1学期に「ふきのとう」、「風のゆうびんやさん」、「スイミー」を扱い、劇や動作化を通して人物になりきって読む楽しさを味わった。2学期に扱った「ニャーゴ」では、音読劇やペープサート、紙芝居等、子どもたちの自由な発想のもと表現活動が広がり、附属幼稚園児(3～5歳児)に向けて青空音読会を行なった(詳細は要項 p55-56 を参照)。場面の様子や登場人物の具体的な行動を想像して読み方を工夫する姿が見られたことから、低学年の子どもたちにとって、音読は物語世界にひたる手立てとなると考えている。

一年間の終わりに読む物語として、アーノルド・ローベル作の「がまくんとかえるくん」シリーズに挑戦する。本学級は「みがく」の活動から発展し、年間を通して子どもたちが出会った小さな生き物の飼育活動に取り組んできた。春の校外学習で見つけたオタマジャクシをカエルになるまで、愛着をもって育てた経験もあり、がまくんとかえるくんが、自然の中で友情を深める話を楽しんで読むであろう。四季折々の自然の暮らしの中で、相手を思いやる二人のあたたかなやりとりを楽しみながら、本文のことばに着目し、場面の様子や登場人物の行動、二人の関係性を読み取っていきたい。教科書教材である「お手紙」を含む複数作品を読むことを通して、シリーズ全体を貫く“友情”や“優しさ”について考えを深めたい。

3 学習指導計画(5時間目/全14時間)

第1次 シリーズ作品と出会う。みんなで音読したい作品を選び、学習の見通しをもつ。…3時間

第2次 「お手紙」(共通教材)を読み、叙述に着目して疑問をもとに話し合い、それぞれの表現にいかす。…本時8時間目/9時間

第3次 選んだ作品のグループで音読劇に取り組み、音読会を行う。…2時間

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

場面の様子を想像し、がまくんとかえるくんの関係性について自分で選んだ言葉であらわす。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
・今日の問いを共有する。 ・「お手紙」の音読劇を発表する(1グループ) ・問いについて話し合う。 ・話し合いをいかして、自分だったらどう読むか考えて表現する。 ・がまくんとかえるくんの性格や関係性について自分で選んだことばで表す。	・事前に、みんなで選んだ3作品について全員に印刷物を配り、それぞれが読み込んでおく。 ・音読劇を見る視点を明確にするために、事前に問いを共有する。 ・読み取りをいかして「ふたりは〇〇」にふさわしいことばを考える。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

複数作品を扱うことが、場面の様子を想像し、二人の関係性を読み取る手立てとなっているか。